

稀観本との出会い二題 ― 『今立郡誌』編纂と『越路草』を中心として―

池田正男

はじめに

北陸新幹線敦賀延伸開業と同じ年に今立郡分立千二百年記念日（分立は弘仁十四年（八二三））を控えるこの年に、今立郡に関わる稀観本との出会いがあり、その出会いを機に更なる稀観本との出会いがあった。奇しくもその稀観本『越路草』を目にした昨年は刊行三四〇年に当たる。それらの顛末を記すとともに、稀観本の内容を紹介しようと思う。

まず岡部静雄編著の『今立郡誌編纂余録』と『味真野村誌』なる謄写版刷りの和綴じ本を入手した。いずれも活字化されていない書籍で、その写本は越前市立図書館の庭本文庫に架蔵されているのみである。この稀観本関連書籍を探索する過程で『郡誌編纂材料』なる今立郡誌編纂原資料と出会いがあり、さらに越前府中で初めて刊行された俳書『越路草』の未発見の「巻第三秋之部」との出会いが

あった。そこで「今立郡誌編纂」関係と「越路草」関係との二題に分けて記してみたいと思う。

― 『今立郡誌』の編纂を辿る

本章では前述の書などから郡誌編纂の進め方とそのデータを紹介しますとともに、その現存資料の書誌を記しておく。

（一）『今立郡誌』編纂の進め方とそのデータ

① 『今立郡誌』編纂の進め方

当該誌の編纂の進め方については『今立郡誌』の「本誌編纂の主旨」に「郡長は郡内有識の士十二名に常任委員を委託し、尚郡内の各町村長、各小学校長、及び神官僧侶並知名の士等、百九名に編纂委員を嘱託し、特に常任委員岡部静雄に専務書記を命じ執筆を託することとしたり。明治四十二年三月郡内各小学校長より提出せる取

調書を材料とし、(中略)七月三十一日編纂を結了せり」とあって、時の皇太子(後の大正天皇)の北陸行啓に際して台覧に供すべく、急遽編纂の方針が打ち出され、明治四十二年九月の行啓に間にあったことが知れる。あまりにも短期間であったためか、そのポリウムは四〇〇頁強という至って薄い成果とならざるを得なかったとみられる。その編纂データは各村の小学校単位で取りまとめられ明治四十二年三月に提出され、わずかに四ヶ月で編纂を終わらせたという具合であった。

② 編纂データ資料とその現存資料

岡部静雄は『今立郡誌』の編纂常任委員と専務書記を担った人である。『今立郡誌編纂余録』は、その岡部が『郡誌』編纂に携わった際の問題点や疑問点、伝承等の真偽などの主張を記したものであるが、その論中に各村から提出された資料名を典拠として記している(表1)。

典拠資料の殆んどが、初見のものが多く、例えば村誌名では、北新庄・河和田・服間・岡本・北日野・新庄・国中・上池田・片上、郡誌材料では粟田部・誠照寺・証誠寺・新横江・中河・北日野・神明・新庄・岡本・服間・中山郷・片上・河和田などである。なお今立郡は一町一七村あり、その資料データは町村別に纏められていたようであり、県立図書館に『今立郡誌編纂材料』として一部が現存している(表2)。

③ 今立郡誌編纂材料の書誌

県立図書館蔵の『今立郡誌編纂材料』の書誌を表3に示す。

池田 稀観本との出会い二題

表1 今立郡誌編纂余録の記載の典拠資料名

箇所	典拠資料名	典拠箇所	箇所	典拠資料名	典拠箇所
1ウ	味真野名跡志	継体天皇	36ウ	享保書上	誠照寺
2オ	粟田部村誌編纂材料	継体天皇	37オ	郡誌材料として同寺縁起	証誠寺
5ウ	漆商工会調査書	漆業沿革	39オ	証誠寺提出郡誌材料	証誠寺
6ウ	味間野記	継体天皇	39ウ	新横江村提出郡誌材料	村国正善寺淨徳寺清誓寺
8ウ	越路草	禅海長者	40オ	郡誌材料中河村誌	新出誓願寺
14ウ	明治42年提出真柄遺跡書	勾の里	40オ	郡誌材料北日野村誌	帆山円照寺
15オ	北新庄村誌	下真柄天皇田	43オ	神明村誌郡誌材料	神明神社
15ウ	今立郡誌所載	上真柄勾の里	44オ	中河村誌郡誌材料	下河端神明神社
18オ	片上村別所羽太明神	片上村月見石	45オ	郡誌材料として提出粟田部村誌	岡太神社
25オ	北中山落井正立寺由緒書	三何庄月見石	46ウ	郡誌材料新荘誌	下新庄剣神社
25オ	北新庄中新庄妙順寺由緒中	妙順寺	47ウ	郡誌材料北日野発育校誌	日野神
25オ	新横江村下新庄十王寺由緒中	十王寺	49オ	郡誌材料岡本村誌	大瀧神社
25ウ	河和田村禪定寺古跡	禪定寺	49ウ	郡誌材料服間村誌	朽飯神社
26オ	河和田村誌	長禅寺	50ウ	郡誌材料中山郷誌	国中神社
26オ	舟津神社由緒中	舟津神社	51オ	郡誌材料明化校取調書	河和田神社(刀那)
26オ	服間村誌	朽飯神社	51ウ	郡誌材料文昌校取調書	河和田神社
26オ	岡本村誌	成願寺	52オ	郡誌材料服間村誌	水間神社
26ウ	北日野村誌	日野神社	52ウ	郡誌材料中河村誌	花出稲荷神社
26ウ	新庄誌	下新庄諏訪	52ウ	郡誌材料片上村誌	吉谷春日神社
26ウ	国中郷土誌	国中神社	52ウ	寺院縁起	吉谷春日神社
26ウ	上池田村誌	須波阿須疑	54オ	郡誌材料発高校調査	帆山神社
26ウ	片上村誌	別所西称寺	54オ	郡誌材料柔順校調査	石部神社
27オ	毫撰寺伝灯略歴中	毫撰寺	54ウ	郡誌材料河和田村調査	小坂敷山神社
27オ	北新庄村誌	三ツ屋加茂神社	55オ	郡誌材料南越校調査	加多志波神社
27オ	片上羽太明神中	羽太明神	55ウ	郡誌材料合志校調査	入谷鵜甘神社
31オ	毫撰寺伝灯略歴付録	毫撰寺	56オ	小山田神社明細帳	小山田神社
33ウ	誠照寺由緒郡誌材料	誠照寺	(箇所)	筆者所蔵本の記載箇所)	

表2 典拠資料名と村誌・村是の現存状況

No	地区名	余録典拠資料名	村誌	村是
1	鱈江町			
②	味真野	合志校調査	△岡部編味 真野村誌	
③	北新庄	北新庄村誌		
④	国高			◎ M43.10
5	新横江	新横江村提出郡誌材 料・新荘誌		◎ M42.9
⑥	北日野	北日野村誌・発高校・ 発育校		◎ M43.3
7	舟津			◎ M42.11
8	神明	神明村誌		
9	中河	中河村誌		◎ M43.5
10	片上	片上村誌		
⑪	南中山	国中郷誌・中山郷誌	△赤坂区のみ	
12	北中山	北中山村誌・南越校・ 柔順校	◎	
⑬	粟田部	粟田部村誌	◎	
⑭	岡本	岡本村誌	◎	
15	上池田	上池田村誌	◎	
16	下池田		◎	
⑰	服間	服間村誌・明化校	◎	◎ M44.5
18	河和田	河和田村誌・文昌校	◎	

○数字は越前市域 ◎現存 △一部現存 数字は発行年月

北中山村・粟田部村・岡本村・上池田村・下池田村・服間村・河和村の八ヶ村が綴じられている。なお、この当時の村区分であるため、現在は越前市域の南中山区である赤坂が北中山として残っている。各村にある尋常小学校がまとめたものを事務局に送ったものとみられる。しかし急な要求であったためか、記事は一貫性を欠いたものになった。

④その他の現存資料の書誌

『郡誌編纂材料』以外の資料の書誌を表4に記す。

表3 今立郡誌編纂材料の書誌

No	村名	資料名	提出校	対象地域	主要記事(数字は丁数)	全丁数
1	北中山村	北中山村赤坂区誌	化致小学校	赤坂	地理6、歴史8	14
		郷土誌編纂資料	中山尋常小学校	落井・松成・下戸口 三峰・上戸口・中戸 口・磯部	地理6、歴史10	16
		柔順小学校下地理 歴史調	柔順小学校		地理5、歴史5、報徳6	16
		北中山村新堂川島 区誌	南越尋常小学校	新堂・川島	地理歴史11、忠僕3、満願寺履歴1、正立寺3	18
2	粟田部村	粟田部村誌	不記載	全域	地理8、沿革2、名所旧跡3、人物11、教育2、童話4、 俗謡5、流行歌2、里謡1、祭礼旧慣15、風景社寺7、 木津家3、その他27	90
3	岡本村	岡本村誌	清慎尋常高等尋常 小学校	全域	地理13、歴史9、風俗8、俗歌方言5、社寺8、旧家6、 団体1、製紙の沿革4、善休寺5、月尾名所旧跡誌	61
4	上池田村	郡誌編纂材料	水海尋常小学校	水海・美濃俣	地理歴史30、神社19	49
		上池田高等小学校	上池田高等小学校	上記以外	地理歴史10、池田惣社20、水戸浪士4、畜産4、電 気事業2、人物2、その他6	48
5	下池田村	下池田村郷土誌	松雲尋常小学校	全域	地理歴史11、水戸浪士4	18
6	服間村	服間村誌取調書	清嘉尋常小学校	朽飯・高岡・藤木・ 領家・春山・波垣・ 東樫尾	地理歴史43	43
		地理歴史教授材料 調査書	明化尋常小学校	横住・清根・相木・ 西河内	地理歴史32	32
		国光尋常小学校下 郷土誌	国光尋常小学校	室谷・長谷・北坂下・ 殿・大谷・南中・赤 谷	地理歴史15	15
		村誌	水間尋常小学校	炭焼・柳・市野々	地理歴史15	15
		その他			真勝寺事蹟届書20、上原吉康言行録25、他9	54
7	河和田村	今立郡誌編纂材料 文昌校学区内	文昌尋常小学校	金谷・寺中・北中・ 清水・尾花・沢・上 河内	地理歴史50	52
		タイトルなし	愛敬尋常小学校	別司・小坂・助生田・ 片山・西袋	地理歴史53p	55
		その他			日本漆工会4、講願書6、他14、人物由来他17	41

地理 ①位置②地勢③広袤④気象⑤戸数人口⑥官衙学校⑦運輸交通⑧人情風俗⑨物産⑩納税⑪鉱山鉱泉⑫生業⑬協会
歴史 ①沿革②遺物③人物④教育⑤雑祖⑥神社寺院

表4 その他の現存資料の書誌

No	資料名	発行年月	著者	項目	丁・頁数	活・謄	所蔵者	注記
1	今立郡誌編纂余録	記載なし	岡部静雄	3項参照	56丁	謄写	筆者	文中にM42.6の現今に於て
2	今立郡誌編纂余録	記載なし	岡部静雄	同上	119丁	写本	越前市立図書館 庭本文庫	後記に窪田孝哉のものをS12.5写す
3	今立郡誌編纂材料	M42.3		表3参照	637丁	手書	県立図書館	
4	味真野村誌A	M34年以降	岡部静雄	位置広表、地勢山川、区人口、名所旧跡	33丁	謄写	筆者	文中にM33の人口。渡邊清三郎写
5	味真野村誌B	M38年以降	岡部静雄	地理(沿革・位置広表・地勢山川・区人口)、名所旧跡神社仏閣、産業、文物	59丁	謄写	筆者	文中にM38の現今に至迄。同上写
6	味真野村誌C	M39.10	岡部静雄		108丁	写本	越前市立図書館 庭本文庫	T1・8窪田氏写し、S5.11庭本写す
7	味真野村誌D	M39.10	岡部静雄		110丁	写本	越前市立図書館 庭本文庫	S12.6窪田本を借りて写す
8	味真野通誌	M43.1	萩原正基	地誌、史誌、史誌考	126頁	活字	県立図書館	皇太子の台覧に供
9	味真野古跡談	M41.12	岡部静雄	汗斯王・継体旧跡・勾里・松隈・五皇・子安・花筐・等	7丁	手書	筆者	富士廻家書巢の印(窪田孝哉旧蔵)、福井新聞連載
10	味真野古跡談	M41.12	岡部静雄		7丁	写本	越前市立図書館 庭本文庫	味真野村誌Cの末尾に合冊、後跋に近頃生は味真野村誌を編て云々
11	福井県今立郡河和田誌	M36.2	藤田某	地勢・広表・山川・町村・神社・寺院・古跡・人物風俗・運輸物産・鉱泉	42丁	手書	鯖江市立図書館	頭書にM31.12調査
12	誠照寺史要	M42.12	二条源遵	省略	67頁	活字	筆者	誠照寺由緒書と同文
13	新横江村是	M42.9	主任三田村賀一郎	省略	87頁	活字	県立図書館	
14	舟津村是	M42.11	主任斎藤六兵衛	省略	123頁	写本	県立文庫館	凡例にM39乃至M41の3ヶ年を対象
15	北日野村是	M43.3	主任坂野重太郎・佐野喜増治	省略	136頁	活字	県立図書館	
16	中河村是	M43.6	不記載	省略	197頁	活字	筆者	
17	国高村是	M43.10	主査小泉六右衛門・主任村上栄太郎	省略	342頁	活字	県立図書館	
18	服間村是	M44.5	主任上坂與三吉・長谷川與一	省略	400頁	活字	県立図書館	
19	味真野名跡志	文化年中	不詳	味間野・大跡部・日野山・真柄・花筐椽・大坪・文室・毫撰寺・城福寺・小丸城・鞍谷御所・靈泉寺・池泉・余川・五ヶ庄・五分一・野野宮跡	10丁	手書	一向一揆資料集	
20	味間野記	天保年間	不詳	不詳	稿本2冊	手書	所在不詳	
21	越路草	延宝7年	柴垣卜琴	省略	不詳	版本	福井県古俳書大観続編(第1松字文庫・第2藤園堂)・第3県立博物館	四季別の4巻が刊行されたが、春夏秋冬巻が現存している

(二) 皇太子(後の大正天皇) 北陸行啓台覧

①その他の郡誌編纂

県内の郡誌編纂状況をみると、『今立郡誌』には「東宮殿下北陸行啓記念・明治四十二年己酉年九月」の印が押され台覧に供したことが知れる。『足羽郡誌』『吉田郡誌』『丹生郡誌』も東宮殿下行啓に向けて刊行され、『今立郡誌』と同様に少ないボリュウムでまとめられている。『坂井郡誌』は明治三五年に一旦、稿が出来上がっていたが、結局は四五年七月に発行された。『三方郡誌』も少し遅れた四四年一〇月に刊行されている。『大野郡誌』の序文には行啓には触れていないが、学校村吏関係者を動員した旨が記されており、行啓より遅れて四四年一二月に刊行されている。

参考までに、この行啓の日程については『大正天皇実録 第三』⁽²⁾に記されている。また脱稿の後、『東宮殿下北陸行啓画報』⁽³⁾なるB4判の四八頁のモノクローム図録を入手した。また同年に『越山若水』副題「行啓記念写真集」⁽⁴⁾、『福井県敦賀郡名所古蹟写真帖』⁽⁵⁾も刊行されている。

②村是の編纂

「郡史」「郡誌」の過去を振り返るのに対し、「村是」は現在と未来を志向するものであるから「村誌」と同時並行して編纂が進められていたようだ。今立郡内の村是の発行は『新横江村是』に「皇太子殿下行啓・明治四十二年九月二十二日」の印が押されており、郡内で唯一、皇太子の行啓に間に合わせている。他にも舟津村、北日野村、中河村、国高村、服間村の『村是』が行啓後に発行されているが、

『今立郡誌』の編纂と同時並行して村是の策定作業も進められていたことが知れる。表2には「郡誌編纂データ」の現存に加え、村是の現存を明示しておく。

なお現存資料は奇しくも「郡誌編纂データ」と「村是」は互いに補完し合っていることは不幸中の幸いであった。

(三) まとめと補記

①本稿の調査を通じ、余り着目されていなかった貴重な資料の存在を明らかにできた。恐らく村誌の嚆矢ともなるものであり、活性化して広くの方々に提供できることを願うものである。

②『今立郡誌編纂余録』からは失われてしまった稿本の存在が明らかになった。その内容は『余録』に抄出引用されており、貴重な引用文が多くある点で大変貴重である。

③『余録』『味真野村誌』の著者岡部静雄⁽⁶⁾、この写本記述者の庭本雅夫⁽⁷⁾、庭本への資料提供者の窪田孝哉⁽⁸⁾について稿末に注記しておく。

④『北新庄村誌』は現存しないが、かつては学校にも控えの村誌が実在していたようだ⁽⁹⁾。

二 俳諧撰者「卜琴」の人脈調査と『越路草』引用原書の探索

(一) はじめに

江戸時代中期以降に越前府中で毎年刊行された『越府』なる俳書と出会い、それを通じて越前市での俳諧の原初は柴垣卜琴の手にな

る『越路草』であったことを知る。加えて前述のように村誌等に『越路草』からの引用があり、この原書探索を始めた。『越路草』なる書籍は俳書であり『福井県古書俳書大観 続編』¹⁰に春と夏の二巻の翻刻が載せられている。しかし引用箇所はここには見当たらない。この書によれば『越路草』なる書は四巻からなるが、現存は春と夏の巻のみであると記す。

ところが、とある情報が寄せられ、福井県立歴史博物館に『越路草』「巻第三秋之部」の一巻が架蔵されていることが知らされ、早速閲覧させて戴いたので紹介するが、まず概要から記したいと思う。

(二) 俳書『越路草』の撰者の概要

『越路草』を選した卜琴について概要を記しておきたい。元禄二年（一六八九）に奥の細道で芭蕉が通過する十二年も前に京都人ながら越前府中に住し、延宝五年（一六七七）に『玉江草』¹¹を刊行し、次いで同七年に『越路草』を刊行した。芭蕉以前の俳諧は越前では敦賀と福井が先行し、敦賀では日能が京都本能寺から敦賀本勝寺へ住職として来敦し、貞門系の祖貞徳とは親しかったため、貞門系の俳諧が広まった。しかし敦賀で貞門系の俳諧が刊行されることはなかった。¹²

福井では京都に住んでいた北村季吟・重頼・貞室・湖春・卜琴らの撰に入集する者が目立つが、福井の地で貞門系の俳諧が刊行されることはなかった。¹³

さて、卜琴（松風軒、柴垣氏）は京都乙訓郡大山崎生まれで、季吟門下の高弟だったが、後年には越前府中に住み、俳諧活動に力を

尽くした。師の季吟は松永貞徳（貞門派の祖）の流派に属したことから、卜琴もこの貞門系に属した。因みに芭蕉も季吟に師事し貞門系である。

貞門系の特徴の一つは本歌取り、つまり和歌・物語・漢詩文・謡曲等を題材としたもの。さらには百韻では町名・魚鳥名・謡名など一定の物名を詠み込んでいるもの。これらの句が貞門系の特徴であるのに対し、井原西鶴らの属する談林系俳諧の特徴は自らも笑い、他をも大笑いさせるのが身上であった。¹⁴

元禄四年（一六九二）刊の『元禄百人一句』に卜琴が府中住と出ており、この頃まで当地で活躍したとみられるが、その後は芭蕉門下の美濃の各務支考が来越し、その指導を受けた上坂嵐枝が享保十一年（一七二六）に『文月往来』を刊行するまで三十年余を費やすに至る。

以上、今日武生では卜琴は忘れ去られた存在であるが、芭蕉門派一色になる以前に当地で一世を風靡した俳諧に触れることは貴重である。そうした意味でこの稀観本の発見は喜ばしい限りである。

(三) 卜琴撰俳書の概要

①玉江草

- ・延宝五年九月刊
- ・発句付句集 全五冊（一）四卷季別発句集、五卷付句集
- ・序文北村季吟 跋文卜琴
- ・春 三三二句
- ・夏 二一五句
- ・秋 三一一句
- ・冬 一七四句
- ・付句 二六八句
- ・天理図書館所蔵の版本による同翻刻五六三号

・『福井県古俳書大観』（齊藤耕子著）による¹⁵

②越路草 卷第一

・延宝七年頃（刊記なし） ・序文季吟 自序卜琴

・独吟三六句 卜琴 ・春の部 三五五句 ・松宇文庫蔵の版本

・『福井県古俳書大観続編』（齊藤耕子著）による¹⁶

③越路草 卷第二

・夏の部 三〇四句 ・藤園堂蔵の版本

・『福井県古俳書大観続編』（齊藤耕子著）による¹⁷

④越路草 卷第三

・第一丁 卷第三題目録、（第二丁 同目錄欠く）

・第三丁才 同題目録 ・第三丁ウ〜第四七丁ウ 秋の部

・秋の部 四一三句 ・福井県立博物館蔵の版本による

（四）「越路草 卷第三」の概要

当句集には全三三三人、四一三首が収められ、内訳は多い順に府中四六人（二〇％）八九首（二・四％）、福居三九人（二七％）九一首（二二％）、三国三七人（一六％）六九首（一六・八％）、加賀二〇人（九％）一七首（六・六％）、伊勢一七人（七％）四二首（一〇・二％）、京一人（五％）一七首（四・一％）であった。

玉江草では越前人のみの句が収められたが、越路草では全国からの句が収められている。卜琴の活動範囲が反映していることである。越前全体では一四一人（六一％）二七三首（六六％）を占めるが、敦賀は一首も収められていない。但し春の部のみ敦賀二名小浜一名が含まれている。いずれにしても敦賀は貞徳と親しかった日能

の地盤であったことが反映しているものと思われる。また三国、加賀、伊勢との交流も盛んであったようだ。多くは無いが奥州出羽南部越中からの日本海沿岸地の句も入っていることは注目される。これは三国の船乗りの関わりに依るものであるのか。因みに三国では僧と船主が多いようだ。また女性が二名含まれているが船主の妻子とみられる。なお、遊女哥川は寛政十年（二七九八）頃であるから一二〇年程後の事である。

また当時の有名人を挙げれば、師の北村季吟二首、北村湖春（貞徳系季吟の長子）四首、貞怒（貞徳系）一首、信徳（貞門派）二首、江戸からは似春（貞徳系）二首、談林系では惣本寺高政一首、大阪からは井原西鶴一首が収められている¹⁸。

・卜琴の特徴

『玉江草』の自跋に「滑稽は唐国の酒器になずらへて、やまと歌の徳利をあらわし、今世を挙げて、そのしたたりをくむことは、先師宗鑑法師の言の葉、中興の濫觴となれる流れなり。近き世に花咲の翁、これが滑稽の大上戸なりけらし。かの翁の才、武蔵野の如くなりしを季吟先生一滴も漏らすことなく受け続けつつ、此の道繁れ松山とて勧めらるるなさけに（後略）¹⁹」とあって師の季吟勧める滑稽の追求を受け継いだものとみられる。秋の部に収められている師弟の句を挙げておく。

偕は夜か 茶の間に手燭 今日月 季吟
 中は久世 内一夕や 菊の友 季吟
 森の色 葉反古にしけり むら雀 卜琴

鹿の角 目くすり棒も 紅葉哉 卜琴
もみじ鮒も 近江の住の 源五哉 卜琴

ついでに談林系の井原西鶴の句を挙げておこう。

新蕎麦や 木曾殿うたれ 玉五つ 西鶴

延宝七年は西鶴三八歳で矢数俳諧（一日に千余句を作る）に躍起となつてゐる時期であり、当時の流行を詠み込むことが多いようだ。参考として西鶴の句作を挙げておく。

落にけり 風なまぐさき 坊主烏賊 西鶴²⁰

捨小舟 われに成けり 相撲なだ 西鶴²¹

因みに『西鶴大矢数²²』には卜琴も招かれ、西鶴と吟じ合つてゐるので挙げておく。『越路草』刊行の翌年に当たる延宝八年（一六七八）五月七日に大阪生玉社別当の南坊で聴衆千人を集め西鶴が興行した独吟一日四千句である。西鶴投句の返礼として卜琴は大阪に赴いたのであろうか。

第六十二

あやかれよ 鶴の一声 郭公 友吟

茂りの松山 口に出次第 西鶴

蔓ル鍋に 涼しき滝の 落ちてきて 卜琴（下略）

少し解説を加えておこう。この催しは西鶴が聴衆を集めて四千句を吟じようとする企画であり、一〇七段に分けて段ごとに連衆を七人招き上げ、初めに連衆と連句を一首づつ吟じた後に西鶴が九二首を独吟している。この六二段目に卜琴も招き上げられ前記の連句を吟じている。

余談ながら鯖江誠照寺に卜琴の句が刻まれた庭石があるという。参考までに記しておく。

誠照寺の歌石の歌²³

秋の色に染し袂の朽ぬれど 石は昔の名に残りけり 源資顕

涙にも洗ふ岩ほの苔芽て むかしにかへる霜ぞむすべる 卜琴

見る人の袂の露の玉柏 五百二十年もかくやふりにき 四朋

卜琴の人となりを見ておきたいと思う。『誹家大系図²⁶』には北村

季吟門下として卜琴が挙げられ、

卜琴 柴垣氏一下と号シ松風軒ト称ス。城南山崎。巷ノ人。繪ヲ

善ス。梵益ト友タリ。家書越路草四卷アリ。

とあるものの、卜琴の画は伝来していない。ともあれ「梵益と友タリ」の記述に注目し、『誹家大系図²⁶』には次のように載る。

梵益 姓氏祥ナラス、山崎巷宗鑑カ遺跡ニ住ス。正章（貞室実名）

季吟、梅盛、重頼、等ヲ友トシ専誹道ヲコト、ス。承応

年間ノ人ナリ。

推考するに卜琴は若くして宗鑑の近くの山崎で過ごし、梵益や季吟と親交を深めていった可能性が高い。後年になって誰かの招きで越前府中に転居して、俳諧を広めたものとみられる。卜琴に関する情報は極めて少なく、『越路草』夏に、

越の大山ちかくかりの庵をむすびて すみ侍ければ、夏なきさと、おぼえて筒板に書つく。

上々吉 涼しき深山 おろしあり 卜琴

この状況を勘案すれば、日野山山麓あるいは日野川河畔に庵を結

んだとも考えられよう。また地元にと琴に関する資料の伝来は無いようであり、蕉門系によって消された可能性も考えられる。このような不当な扱いを受けた地元俳諧の祖の復権を願うばかりである。

(五) 卜琴の展開の考察

なお稿末に『越路草』『秋夏春』入句者別入句数と『玉江草』などの入句者一覧表(表5)を挙げておく。²⁸⁾この作者の一覧をみて、卜琴の展開を考察してみたいと思う。

① 福居

福居での展開を考察してみたいと思う。表5の「福居2」の冒頭に「玉海集」貞室撰(明暦二年(一六五六))で六名、『新統犬筑波集』季吟撰(萬治三年(一六六〇))に一七名が挙がっている。いずれも卜琴が越前府中に移住する前の事であり、それ以前に季吟などに啓蒙された人達であろう。後述するが、「府中2」の冒頭の『続山の井』湖春撰(寛文七年(一六六七))に二名、『続連珠』季吟撰(延宝四年(一六七五))に一〇名出てくるのは時間差は明白であり、これは卜琴の入府以前の動向とみられる。続いて福居では『続山の井』で一七名が挙げられるが、卜琴が初めて句集を編んだ『玉江草』には、前掲の作者の句は四名しか寄せていない。よって福居では卜琴以外の人達によって俳諧が広められたであろうことが見て取れる。しかし卜琴が府中に移住して以降は卜琴撰の『玉江草』に七八名、『越路草』には五五名と一気に浸透を深めたことが知れる。

② 三国

三国では『新統犬筑波集』季吟撰に道実氏一名が挙がっており、

続いて『続山の井』湖春撰に四名が挙げられるが、前述同様に『玉江草』には以上の五名中一名しか句をよせていない。しかし徐々に卜琴の浸透が進み『玉江草』に四名と少ないが『越路草』に四七名と一気に浸透を深めたようである。

③ 敦賀

敦賀では『玉海集』貞室撰で三名、『新統犬筑波集』季吟撰に一名が挙がっている。敦賀は日能の地盤であり、卜琴の浸透は少なく、『玉江草』には三名、『越路草』二名と卜琴の浸透は極めて限定的である。

④ 越前府中

越前府中では前述のように「府中2」で冒頭の『続山の井』湖春撰に二名、『続連珠』季吟撰に一〇名出てくる程度であるが、卜琴が越前府中に移住した後は『玉江草』で一・二名、『越路草』で七三名と府中での圧倒的な浸透を図っていたことが知れる。

⑤ 加賀

加賀では『新統犬筑波集』季吟撰に一名が挙がっているのみであるが、『越路草』には三四名の句が挙げられている。卜琴の展開に依るものであろう。恐らく卜琴は加賀へも直接足を運んだものとみられる。なお『玉江草』は越前人に限られた選句であるため、加賀人の句は載せられていない。

⑥ 伊勢

越前国以外で目立つのは伊勢であろう。『新統犬筑波集』季吟撰に二二名が挙がっているが、これらの人達からは、『越路草』に一

名しか句を寄せていない。しかし『越路草』へ新規に句を寄せた人は三七名にも及んでおり、季吟の人脈以外に展開したものであろう。俳諧三祖の一人と称される守武は伊勢内宮荒木田氏の出であるが、伊勢側からの資料によれば、杉本望一撰の「伊勢俳諧大発句帳拔書」³⁰にみえる人の句は見当たらないものの、「伊勢俳諧新発句集」³¹にみえる人は六名認められる。よって師の季吟ともども伊勢の俳人との交流は極めて篤かったのである。

⑦北日本海

次いで越前国以外で目立つのは北日本海での展開であろう。『新続犬筑波集』季吟撰に一名が挙がっているが、これらの人達以外の句が『越路草』には一五名の句を載せている。季吟系の人脈を引き継いだものとは言えないであろう。恐らく三国の船乗りたちを経由しての展開だったものと考えられる。

⑧小浜

最後に小浜を見ておこう。『続山の井二名』『玉海集追加二名』『続連珠』四名と季吟系の展開がみられ、以上の八名中『越路草』には一名しか句を載せていない。卜琴の展開は極めて限定的である。

(六) 『越路草』の引用文の探索と後日談

前述の『今立郡誌編纂余録』『味真野村誌』あるいは『岡保村誌』『越前国名蹟考』の中で『越路草』からの引用がみられる。

引用文をつぶさに見れば、原文は片カナを用いていることが判明する。しかるに俳書『越路草』の版本は変体仮名を用いているから、少なくとも引用文は俳書に依るものではない。ただし同じ著者が手

書で『越路草』の地誌編を遺した可能性は否定できない。なお『名蹟考』では「誰人の撰をしらず」と記し、著作名を欠いた資料であったようだ。また『郷土誌料綜合目録』では「越路草 写越前各地の地誌歴史などの随筆 同書名の歌集あり」と記し、俳書とは別物の地誌があると記している。

以上『越路草』引用文の探索からスタートしたが、結論は『今立郡編纂余録』『味真野村誌』『岡保村誌』『越藩史略』『越前国名蹟考』の引用文献は卜琴に依る俳書『越路草』ではなく、同書名の地誌『越路草』からの引用であることが判明した。

脱稿の後、探索していた地誌『越路草』が福井県立図書館に入庫したことが判明した。早速閲覧をさせていただいた、まさしく探し求めていた地誌『越路草』であった。また『国書総目録』の第八巻の補遺に「越路草 写 学習院・春・冬一冊」とあり、冬巻の発見かと喜んだが、確認の結果、「春・夏巻」の誤りであった。なお『芭蕉以前』³⁴に「金沢ろちく庵（殿田文庫）に4冊の内春の部の写本が蔵される」と記してあるから、学習院大学蔵本殿田文庫に該当するようだ。付記しておく。

(七) まとめ

以上、当初は『越路草』の引用文の探索から始まったが、卜琴の俳書『越路草』秋が見付かり、冬を除く三巻が見付かった。加えて地誌『越路草』も見付かり、目的は概ね達成できた。

この俳書『越路草』が見付かったことは、越前府中で最初に刊行された俳書であり、卜琴の活動範囲を明らかにすることができた。

この当時の俳諧ネットワークの実態に触れることができた点は私にとって大きな収穫であった。最後にこの本の閲覧の許諾を戴いた県立歴史博物館及び県立図書館に感謝申し上げる。

おわりに

第一章では書誌的利用に終始した。最後に著者岡部の主張を記し、後代にその宿題を委ねたいと思う。

著者の岡部が最も紙数を割いて主張したのは以下の二点である

①今立郡内にある真宗三ヶ寺本山が親鸞直系寺院であるとの狙いにより、善鸞を第二祖に据えてしまったことに異を唱えている。

②神社の県社・郷社などの社格の認定、あるいは式内社比定について異を唱えている。

今日でも概寺院はその異論に向き合わずに放置しているし、概神社はかつての社格や式内社の比定を言わば既得権のように主張を続けている。またその異論を封じ込めている感がある。郡誌編纂当時に著者の岡部が身を挺して異を唱えた反骨精神に敬意を表するとともに、今尚その異を糺す努力を怠ってきたことを遺憾に思う。

第二章では『越路草』を巡ってその撰者柴垣卜琴の活動の実績を改めて認識した。にもかかわらず当地では卜琴は忘れ去られた存在であり、卜琴の復権を願うばかりである。

なお「越路草入句者別入句数と玉江草等の入句者一覧表」は俳諧人名一覧であるが、越前人名録でもあり、別の活用もできると考え

られる。とりわけ卜琴を当地に招聘し、且つ『越路草』『玉江草』の版行に資金を提供した府中商人はこの中に含まれているはずだ。なお余談ながら、山下與平著及び柳田國男著等の漢文の越前万歳由来にて『今立郡誌』を挙げているが「典拠不詳」としている。しかし前掲『味真野村誌』には『味間野記』と典拠を記している。

注

- (1) 小谷正典「福井県下の「町村是」設定と現存状況」著（『若越郷土研究』三〇巻三号、一九八五年）、同「明治四拾参年設定村是丹生郡豊村役場について」（『鯖江郷土誌懇談会会誌』二六号、二〇一八年）。
- (2) 『大正天皇実録 第三』二二七～一四六頁。
- (3) 『東宮殿下北陸行啓画報（グラフィック第壹巻第拾号）』有楽社、一九〇七年一〇月。
- (4) 『越山若水（行啓記念写真真集）』福井県文書館複製本（加藤竹雄家文書）。
- (5) 『福井県敦賀郡名所古蹟写真真帖』敦賀市立博物館蔵。
- (6) 岡部静雄は越前市清水頭に住した元教師。郷土史家。『味真野村誌』『味真野古跡談』を著す。『今立郡誌』の編纂常任委員と専務書記を務め、『郡誌編纂余録』を著す。別号秀峰。
- (7) 庭本雅夫は越前市広瀬町の元教師。郷土史家。『今庄村誌』『王子保村誌』『南条郡誌』を編纂する。越前市図書館に蔵書を寄贈した。庭本文庫の郷土資料は極めて貴重である。
- (8) 窪田孝哉は越前市広瀬町で医師を開業する一方、郷土史に取り組み。『本多富正公御伝記』を著し、同郷の庭本雅夫に資料を提供した。別号土峰、富士廻家。

- (9) 河崎宇右衛門氏談(越前市杉崎町)「私の子供時代、校長室の奥にしまつてあった『北新庄村誌』を出してきて、読み上げてもらった記憶がある。」
- (10) 『越路草』(福井県古俳書大観 続編) 斎藤耕子編、福井県俳句史研究会、一九九四年、一八九頁。
- (11) 『玉江草』(福井県古俳書大観) 斎藤耕子編、福井県俳句史研究会、一九九二年、一頁。
- (12) 『福井の俳句』 斎藤耕子著、福井県俳句史研究会、二〇〇〇年、一一五頁。
- (13) 注(12) 五頁。
- (14) 『初期俳諧の研究』 田中善信著、新典社、一九八九年、九〇・一一〇・一四五・一七三頁。
- (15) 注(11)。
- (16) 注(10) 一八九頁。
- (17) 注(10) 一九八頁。
- (18) 『俳諧人名辞典』 高木蒼梧著、巖南堂書店、一九七〇年、九一〇頁。
- (19) 注(11) 三八頁。
- (20) 『西鶴俳諧集』 乾裕幸編、桜楓社、一九八七年、三四頁。
- (21) 注(20) 四四頁。
- (22) 『西鶴大矢数』(近世文学資料類従 古俳諧編三二) 近世文学書誌研究会編、勉誠社、一九七五年、一八九頁。
- (23) 西鶴四千句について補足を加える。各段ごとに連衆七名と八句を連句した後、西鶴独吟で九二句を吟じ加えて百句となり、四〇段で四千句になる。四一段以降一〇七段までは連句を八句づつ行っている。
- (24) 『福井の俳匠伝と誤説抄』 斎藤耕子著、福井県俳句史研究会、二〇一〇年、一七頁。
- (25) 『誹家大系図』(書誌学月報 別冊3) 雲英末雄編、青裳堂書店、一九九七年、一一一頁。
- (26) 注(25) 上巻三二頁。
- (27) 注(10) 二〇五頁。
- (28) 作表に当たっては参考文献として、注(11) 『福井県古俳書大観』、注(10) 『福井県古俳書大観 続』、『福井県俳人大観』(斎藤耕子著、福井県俳句史研究会、一九九九年)、『越前俳諧史』(石川銀栄子著、松見文庫、一九七一年)、注(34) 『芭蕉以前』、『新続犬筑波集』索引篇、赤羽学編、安田女子大学、一九九七年)、『北村季吟集』(天理図書館綿屋文庫俳書集成) 天理大学出版部、一九九四年)、『玉海集下』(近世文学資料類従、古俳諧編 四一) 勉誠社、一九七五年)を用いた。
- (29) 注(25) 上巻三二頁。
- (30) 『伊勢俳諧集』(天理図書館綿屋文庫俳書集成8) 八木書店、一九九五年、上巻、三二二〇頁。
- (31) 『伊勢俳諧集』(古典文庫四六三冊) 岡本勝編、古典文庫、一九八五年、二二八〜二三八頁。
- (32) 『新訂越前国名蹟考』 杉原丈夫編、松見文庫、一九八〇年、四三頁。
- (33) 『福井県所在別郷土誌料綜合目録 第3集』 福井県立図書館、一九五四年、一一六頁。
- (34) 『芭蕉以前』(越前俳諧叢書第一集) 石川銀栄子著、福井現代俳句会幹發行所、一九五七年、六八頁。
- (35) 『越路草巻春夏写本合冊』(学習院大学文学部殿田文庫No三八一登録番号 一七六一〇七)。

表5 越路草入句者別入句数と玉江草等の入句者一覧

地域	句集	作者・注記	作者	秋	夏	春
京	海○△	(貞門系北村氏)	季吟	2	2	1
	海	京住伊藤氏(貞門系)	信徳	2		1
	海新道○	京住大井氏重次(貞徳)	貞怒	1		1
	△	京住北村氏(貞徳系)	湖春	4	1	3
	○	京北村氏	正立			1
		京住惣本寺(談林系)	高政	1		
	海	安原氏(貞門系)	貞室		1	1
	○△	京山岡氏(貞徳系)	元隣			2
		高橋氏佗心子(貞門系)	梅盛			1
		(貞徳系)	似船			1
		(談林系宗因か)	梅翁		2	
	△	京住井狩氏	友静		1	5
		京望月氏	千之	2		3
		京住辻氏	義雪	1		
	伊	京住(一河氏)	友吉	1		
	△	(京半井氏)	一六	1		1
	海○	京住大村氏	可全		1	1
		京住那波氏	律翁	1	1	1
		京住浜川氏	自悦			2
		京住	宗種			1
		同住宮川氏	正由		1	1
		京住	只計			1
		京住岩本氏	勝利			1
		京山岡氏	元怒			1
		京西本願寺	花鳥資	1	1	
		西條道場片桐氏	良保	1		
		西三條内大臣遺遥院	実隆公		1	
		大徳寺和尚	玉舟		1	
	海○	長頭丸・号道遊軒	貞徳			
				17	10	31
大坂		葛岡修理太夫	宣慶	1		
		大坂住井原氏(談林派)	西鶴	1		
		大坂住西山氏	梅葯	1		
	△	大坂住松山氏(談林派)	玖也	1	1	1
		大坂伊勢村氏	定朝	1		
		大坂住	捨身子	1		
		大坂住桜井氏	不竹	1		
		大坂小西氏	満平			1
		大坂住小野氏	松緑			1
	△	大坂住中堀氏	初知			1
	大海○	大坂堀山氏	保友		1	1
	△	大坂住伊勢村氏	重安		1	
	海○△	大坂住井口氏	如貞		1	
		大坂住高木氏	松意		1	
	○	堺住阿知子	顕成			1
		堺住長谷川氏	秀致			1
				7	6	6
勢州1	伊	松坂住世古氏	三俊	1		1
		松坂住竹内氏	流也	1		
		松坂住小津氏	三思	1	1	
		松坂住	三保	2		4
		松坂住	三好	1		
	伊○	松坂住竹内氏一葉子	三信	15	5	10
		三信内三井氏	三林	1		1
	伊	三信内朝田氏	三宣			2
		松坂住長松軒	三緒	7	6	2
		松坂住隠人	秋然	1		
		松坂住	松女	3		
		松坂住松女祖母	清心			1
		松坂住尼	守貞	1		
		松坂住竹内	道本			1
		松坂住藤村氏	吉之			1
		松坂住浄安院	存的		2	
	伊	勢州足代氏民部少	弘氏	1	1	
	伊	勢州一之瀬下村氏	安治	1		
		内宮長官正三位	氏富			1
		内宮荒木田氏正五位	武珍		1	

凡例

西暦	和暦	句集	句集名	撰者
		大	伊勢俳諧大発句帳抜書	望一
1656	明暦二年	海	玉海集	貞室
1659	萬治二年	伊	伊勢俳諧新発句集	不詳
1660	萬治三年	○	新続大筑波集	季吟
1667	寛文七年	山	続山の井	湖春
1667	寛文七年	追	玉海集追加	貞室
1669	寛文九年	△	百五十番俳諧発句合	季吟
1675	延宝四年	連	続連珠	季吟
1676	延宝五年	玉	玉江草	卜琴
1678	延宝七年		越路草	卜琴
1679	延宝八年	矢	西鶴大矢数	西鶴
1685	貞享二年	新	新玉海集	貞怒

地域	句集	作者・注記	作者	秋	夏	春
勢州2		内宮藤波氏	氏守		1	
		下宮度会氏正五位	慶彦	1		2
		下宮世木氏正五位	定光			1
		水無瀬前中納言	氏成			1
	(大)	山田住谷氏号不□	嘉因	1		
		山田住成子氏号竹□	吉度	1		
		山田住藤木氏	追喬			1
		山田住	不貴			1
		山田住藤井氏	追勝		1	
	伊	山田住(杉山氏)	光勝		1	
		勢州山田住	玄理		1	
		伊勢山田住荒木田	二休			1
		勢州桑名住	吉益			1
		朝熊野間氏	政安	3	4	1
		伊勢朝熊住	中也			1
		勢州射和住中村氏	清敷		1	
		勢州名残住高松氏	勝正		1	
	大○	伊勢法師	文性			
	○	勢州山田住慶会氏	貞辰			
	大○	勢州山田住	利清			
	大○	勢州山田住勾当氏	望一			
	○	勢州山田住西村氏	政永			
	○	勢州山田住高島氏	普光			
	大○	勢州山田住	正利			
	大海○	勢州山田住(杉木氏)	光貞妻			
	大海○	伊勢山田住荒木田	守武			
	○	伊勢桑名中島氏	貞利			
	○	伊勢桑名水谷氏	貞長			
	○	勢州桑名住小橋氏	重之			
	海新道○	伊勢長島佐野氏	忠清			
	○	伊勢長島佐野氏	忠清姉			
	○	勢州桑名住山田氏	昌長			
	○	伊勢松坂一至田中氏	藤石			
	○	松坂住沙弥(春陽軒)	加友			
	○	松坂住	加連			
	伊海○	松坂住(常念寺)	昌把			
	○	松坂住浜田氏	求笑			
	伊海○	松坂住竹内氏	良信			
				42	26	34
山崎	○	山崎柴垣氏改 一下	卜琴			
		山崎住松田氏	宗綱	1		1
摂州		摂州今津住堀田氏	不必	1		
和州		和州多武峰	古楠	1		
		和州住月松軒	紀子		1	
紀州		紀州若山浅井氏	善生	1		
	大伊○	紀州長嶋住容藤亭	一入		4	1
		紀州加茂谷浜中村	梅心		1	
尾州		尾州名古屋榊原氏	風箔	1		
		尾州高木氏	皆醉	1	1	
		尾州名古屋住丹羽	忠勝	1		
		尾州(名古屋住・水野氏)	雀巢軒	3	3	3
		尾州名古屋荒川氏	任風	1	1	1
		尾州吉田氏	蘭秀			1
美濃		美濃大垣谷氏	木因	1		

地域	句集	作者・注記	作者	秋	夏	春
江州		江州今津安達氏	勝信	1		
		近江海津磯野□	得友	1		
		大津山本氏	少魚		1	
松本		松本坪田	一持		1	
	江戸 △	江戸住小西氏(貞徳系)	似春	2	1	1
		江戸住岸本氏	颯和	1		
		江戸住笹倉氏	重良			1
		江戸住坤庵	未琢			1
	江戸水野氏	宗機		1		
讃岐		讃岐住	一三			1
	与州	与州松山住	一景	1		
		与州桑折氏	宗臣		1	
肥前		肥前住僧	龟毛			1
	肥後	肥後八代住	山石		1	
				18	17	12
加州		加州金沢小川(河)氏	野水	4	1	3
		加州金沢宮坂	德利	1		
		金沢立花氏	可融	1		
		金沢高橋氏	因之	1		
		金沢宇野氏	一烟	2	1	
		金沢住宇野氏	一煙	2	7	
		加州金沢中田氏・田中氏	可勢	1	1	2
		金沢住大西氏	宗視	1		1
		金沢住立花氏	松葉	1	2	2
		金沢住小槽氏	一笑			1
		金沢住今村氏	幽也		1	4
		金沢住寺嶋氏	無貞			1
		加州金沢藤井氏	明是			1
		金沢高田氏	貞之	2		
		加州金沢藤井	米知		1	
		金沢住石井氏	武重	1		
		加州高松氏	青葉		1	
		小松住	正儀	1		
		加州小松住村井氏	可竹	1		
		加州小松住堤氏	欽生	2		2
		加州松住夕風軒長谷川	薫煙烟	1	3	2
		加州松住住	湖舟			1
		加州松住岡田氏	友信			1
		加州宮越住板村氏	夕玄	1		
		加州宮越住	波之	2		
		加州大正持坪光□	好勝	1		
		加州山中住水江氏	定重	1		
		加州山中住堀江氏	一琴	2	4	3
		加州山中住	不雲	1		
		加州山中住	慶山	1	4	
		加州山中住塚谷氏	元成		1	1
		加州山中住塚谷氏	元重	1		
		加州山中住	石雲		1	
		加州白尾	惠徳	1		1
	海○	加賀(高田氏)	正種			
				27	27	33
能登	○	能登及嶺郡安部屋	適応			
越中		越中富山近所岩城氏	正永	1		2
		越中富山近所岡氏	幸通	1		
		越中富山半井氏	可然			1
		越中富山住千秋氏	卜仲			1
		越中富山豊嶋氏	寛重		1	
		越中城ヶ端細川氏	道治		1	
越後	○	越後勝田氏	広重			
	○	越後高田	十手			
奥州	△	奥州岩城城主	風鈴軒	1	1	1
		奥州南部菊池□	政香	1		
		奥州南部住佐井村沙門	朝榮			1
陸奥	○	陸奥二本松水野氏	林元			
敦賀2	海	敦賀野沢予兵衛	永吉			
	海	敦賀野瀬氏	定利			
	海	敦賀中村古吉	正次			
	海	敦賀弥兵衛	重識			

地域	句集	作者・注記	作者	秋	夏	春
出羽		秋田城下森氏	望酒	1		1
		出羽秋田大館住	玄智	3		
		出羽秋田住晚翠堂	桂葉		2	2
		羽州秋田能代伊東	政吉			1
	(大)○	出羽秋田吉岡氏	宗茂			
	海○	出羽秋田大光院	尊為			
	○	出羽秋田伊藤氏	政古			
	○	出羽秋田田辺氏	笑意			
	○	出羽秋田渡辺氏	俊久			
	○	出羽秋田野代吉岡氏	宗定			
	○	出羽秋田野代宮越氏	安正			
		秋田大館住横山宮内	成芳	1		
		秋田大館住船木氏	三順			2
				9	5	12
	不詳			繡石	1	
			直之	3		
			直之女	1		
			直之室	1		
			三鳥	1		
		朝倉氏	十三歳	1		
			鷹白	1		
		氷見氏	紫浪	3		
			兼介	2	1	
			雲仙	1	1	
		秋山氏	方次	1		
		高橋氏	一衣	2		
			吟□	1		
		山本氏十三才	幾久			1
		本多氏	阜音			1
			19	2	2	
福居3	山追海	福居山川氏	無楽			
	追海	福居一山氏 文清	幸風			
	海	福居伊藤氏	良卿			
	海	福居三階氏	竹雪			
	海	福居徳兵衛	吉昌			
	海	福居	塞童			
	海	福居山本氏	重直			
	海山○	越前秋山左兵衛	方竹			
	山玉○	福居中村氏	棟善			
	玉○	越前松井氏	之昭			
	山連玉○	福居	古玄			
	山連○	越前	風吟			
	追山○	福居神戸氏	可郷			
	山○	福居村田氏	吉忠			
	追○	越前	点可			
○	福居	正吉				
○	福居	好意				
○	福居	蛭声				
○	越前	可申				
○	福居伊東氏	嘉郷				
○	福居慶法寺	僧一真				
○	福居池田氏	一慶				
連追山	福居江口氏	吉英				
追山	福居雨夜氏	笑種				
山	福居	茂佐				
山	福居	豊武				
山	福居	不及				
山	福居	打雨				
山	福居奥村氏	宗利				
山	福居森田氏	重長				
山	福居	重州				
山	福居	重治				
山	福居	吉次				
敦賀1	山新○	敦賀本勝寺一三世	日能			
	○海	敦賀犬井氏 重次	貞怒			
	新玉	敦賀住野瀬氏・桂葉軒	文室			1
	敦賀住	本道			2	
追海	敦賀三宅彦右衛門	秀辰				

地域	句集	作者・注記	作者	秋	夏	春
福居1	連山玉	律善軒	四册	15	16	14
	玉	四明室・杉田氏	正治女	3	1	2
	玉	福居住柳條軒・牧野氏	隋風	9	8	9
	連玉	福居住見龍(柳)軒・山田氏	盤谷	3		1
	連玉	○□軒・森氏	露程	4	5	5
	連玉	福居住杉田氏	露身	1		
	連新道玉○	福居住多田氏	祐元	6	4	8
	玉○	福居林氏	老婆			
		福居住本多氏	十歳	1		
	玉	福居住・元紀伊国住	幸年	1	2	2
	連玉	浄善寺	吟入	2	3	1
	玉	福舊開霜軒	松隣	2	1	2
	玉	福居住鈴木波鴨軒	恥言	7	7	2
		福居住岡田氏	梅塵	1	2	
		福居戸村氏	清宗	2		
		福居本多氏	可楽	3		
		杉田青琴母	惠閑	1		
		福居士橋氏	土龍	1		
		福居住立田氏	知清	2	1	
	山玉	福居住荒川氏	時興	1		1
		福居住松原氏	進貞	1		
		福居有賀氏	一楽	1		
		福居住	定仙	1		
		福居住中井氏	可柳	1	1	
	玉	福居住寒土軒	一葦	4	3	7
		福居住有賀氏	耕雲	3	2	5
	玉	松平氏	不憚	2		
		福居住西脇氏	長狐	1		
		福居住・丹羽氏医師	朽木	2		
		福居秋山氏	似獲	1		
	玉	福居住片霧氏	少心	1		1
	玉	福居住野村氏螢灯軒	一友	1	3	
	山玉	多賀谷氏・改雲青	里明	1		
	山玉	福居山本氏・惟通改め	朝四	1		1
		福居久世氏	如蒿子	1		
		福居住	女	1		
		福居天井氏・矢野氏	一志	1		2
		福井	勝山屋	1		
		福居渡部三哲・渡辺氏	笑求	1		2
	山玉	福居西脇氏	長心	1		
	玉	福居一章内伊藤氏	楽助	1	1	
	玉	小林氏	受光		1	
		福居住	雪甍			1
	玉	福居住千田氏	春青			1
		福居住	以志			1
	玉	福居横尾氏	噀口		1	1
		福居住若林氏	意程			1
	玉	福居清水氏	為安			1
	玉	福居住号利玄	不言			1
		老養軒	老羊軒			1
		福居住	振女			1
		福居住田中氏	一笑			1
		福居住岡部氏	快濟庵			1
		福居住少人	親友			1
		福居住有賀氏	一楽			1
	玉	福居住大旗氏	遊心			1
	連山玉	福居	言慰			
	連山玉	福居酒井氏	松声			
	山玉	福居	可浅			
	連玉	福居露滴軒本多庭芝改	出勝			
	連玉	福居唯宝寺沙門	為心			
	連玉	舟橋四王天氏	敷寛			
	連玉	舟橋四方田氏	政信			
	連玉	舟橋四方田氏	政弘			
	玉	福居愛宕山桑門	月鼠			
	玉	福居	山鹿			
	玉	福居西脇長心息女	一一歳			

地域	句集	作者・注記	作者	秋	夏	春
福居2	玉	福居	岡部氏			
	玉	福居中野氏	交費			
	玉	福居山中氏	古木			
	玉	福居	元春			
	玉	福居杉田氏母	惠閑			
	玉	福居釋氏	空仙			
	玉	福居	恐言			
	玉	福居有田氏	昔風			
	玉	福居	蝶女			
	玉	福居	一声			
	玉	福居鈴木氏	一成			
	玉	福居桜井基佐	永仙			
	玉	寒土軒	一葦母			
	(海)玉	福居津田氏	屋勝			
	玉	福居長谷川氏	賀吟			
	玉	福居隨風内矢野氏	汗流			
	玉	福居渡部氏	愚吟			
	玉	福居	任口			
	玉	福居雨夜氏	茂友			
	玉	福居浅尾氏	和石			
	玉	福居飯田氏	鵝毛			
	玉	福居松平氏内	不知名			
	玉	福居木田住沙門	甚正			
	玉	福居杉田氏紅葛軒	青琴			
	玉	福居野本氏	露夕			
	玉	福居森山氏	望心			
	玉	福居信太氏	武親			
	玉	福居橋本氏	不迅			
	玉	福居土田氏	貞能			
	玉	福居信尋氏	素下			
	玉	福居久世氏	正倫			
	玉	福居本多氏	正房			
	玉	福居本多氏	可楽			
	玉	福居松平氏	正親			
	玉	福居大塚氏	正治			
	玉	福居多田氏	定元			
	玉	福居多田氏	勝定			
	玉	福居猿渡氏	止丘			
	山	福居	慰心			
	山	福居三原氏	意休			
	山	福居	意計			
	山	福居	藤次			
	山	福居	孝順			
	山	福居	豊孝			
	追	福居中村氏	旨峰			
	連	福居	露貞			
	連	福居	秀風			
				91	62	81
大野		越前大野住手塚氏	三英		1	
	玉	大野手塚氏	三尋			
	玉	大野	逸重			
今庄		越前今庄住山口	正之	1		
		越前今庄中村氏	忠正			1
		越前今庄住上宮寺	真夢			1
		越前今庄住	幽谷子			1
	玉	今庄山口氏	正盛			
				1	2	2
越前		越前住	鵝	1		
		越前上林氏	延雪			1
		越前中毘沙門住	宗重	1		
		越前田中氏	一笑			1
		越前小林氏	益依			1
				2	2	1
小浜	新連	若州小浜河越氏	今武			1
	追	小浜古閑氏	宗甫			
	追	小浜平尾氏	正武			
	山	小浜小栗氏	勝良			
	追山	小浜吹田四郎右衛門	舍勝			

地域	句集	作者・注記	作者	秋	夏	春
府中1	山新追玉連	松風軒柴垣氏	卜琴	9	3	3
	玉	府中塚谷氏	無心	6	1	8
	玉	小林氏元酌(府中住)	杏仙	2		
	玉	越府正覚寺内	一祐	1		
		府中住三田村氏	重値	2		
	連玉	府中五十嵐氏	不得	4	3	3
	連玉	越府正覚寺内・超勝軒	林友	4	2	2
	玉	正覚寺内万日堂開山	願入	1		1
		晦盲軒府中	闇純子	1	1	
		府中住長谷川氏	永元	1	1	1
	玉	越府住齋藤氏	存子	3	3	1
	玉	府中三田村氏	紅友	2	2	3
	玉	越府住河合氏	繻水	5	3	1
		石川氏	秋水	5	2	6
	連玉	府中橋本氏	元政	2		2
	連玉	府中増永七右衛門	遠近	1		3
		黒川氏府中	宗明	1	1	
		越前平出之住	信勝	1		
		府中住塩屋十一才	息	1		
		府中住石黒氏	正重	1	1	1
	連玉	府中住松村氏	重條	1		1
	連玉	府中畠山氏	長安	2	1	
		府中住・忠見氏	不貴	5		
	連玉	府中住藤井氏	利方	1		1
		府中住帆山寺	永俊	2	2	4
		府中住磯氏	長之	1	1	
		府中住三田村氏八才	太郎八	1		
		越府住宇佐見氏六才	四郎八	1		
	玉	府中住玉村氏	元久	2		2
		府中住永田氏	芳烟	1		
		府中住	有米母	2		
		府中住	英春	1	1	
	玉	府中住宮川氏	昌興	2	4	1
	玉	府中住	三易	3	3	1
		菅沼氏	不恁	2	1	1
		石川氏	依流	1		1
	連玉	府中住蜂屋氏	露山	1		
		越前府住畠中氏	尹貞	1		1
	玉	府中伊藤氏	永貞	1		1
	玉	府中住金子氏	未明	1		1
		府中安孫子氏	磐近	1		
	玉	府中住高橋氏	盈貞	1		1
	連玉	府中住蓮昌寺小僧	良貞	1		
	連玉	越府上坂氏	真信	1	2	4
	玉	府中鈴木氏	真信	1	2	1
		越府住秋田氏	慶光			1
	玉	府中住称名寺上人	印叱	1		1
		府中住	経王寺			1
	玉	府中住中嶋氏	安清			1
		府中住	羊歩			1
	連玉	府中住正覚寺常住院	風琴		1	2
	連玉	府中住依久間氏	直之		3	2
		府中住岡田氏	始入			1
		府中住小田十才	亀鶴			1
			郎哉子			1
		逸人	養存			2
		山本氏	友金			1
	連玉	五十嵐氏	不求			1
		藤合氏	有貞			1
		津賀谷氏	宗定		1	
		佃氏	螢光		1	
		大旗氏	玉心		1	
	玉	府中住長谷川氏	忠念		1	1
		越前府住連水氏	近貞		1	
		府中引撥寺阿闍梨	風葉		1	
	玉	府中住広庭氏	可長		1	
	玉	越府住原氏	季之		2	

地域	句集	作者・注記	作者	秋	夏	春
府中2	玉	府中住宮川氏	昌房		1	
		越前府林氏	信経		1	
		府中住藤田氏	重光		1	
		越府住永田氏	芳雄		1	
		府中住大津屋九才	鶴松		1	
	山	府中	玄甫			
	山	府中藤井氏	久知			
	連玉	岡本三好氏	衆方			
	連玉	府中伊井氏	桐琴			
	連玉	府中尼	朝蛭			
	連玉	府中梅野氏	政定			
	連玉	府中松林院	実尊			
	連玉	府中高田氏	喜入			
	連	府中	友琴			
	連	柴垣氏	可々			
	連	府中河合氏	秀久			
	連	府中見池氏	安榮息			
	連玉	府中見池氏	安榮			
	玉	府中見池氏	季静			
	玉	府中見池氏	安基			
	玉	正覚寺善勝院	善察			
	玉	正覚寺養泉院	秀琴			
	玉	正覚寺松樹院	松吟			
	玉	正覚寺安称院	石水			
	玉	正覚寺常照院	可竹			
	玉	正覚寺友松院	然提			
	玉	府中正覚寺宝樹院	良也			
	玉	正覚寺内平出氏	三永			
	玉	府中正覚寺小僧	知察			
	玉	府中大雲氏	室			
	玉	府中梅野氏	正俊			
	玉	府中山本氏	安治			
	玉	府中吉江氏	雲下			
	玉	府中長谷川氏	家重			
	玉	府中縣氏道策	奇隠			
	玉	縣道策息女	雪			
	玉	府中齊藤氏	喜願			
	玉	府中五十嵐氏一一才	吉三			
	玉	府中辰政第八才	五郎松			
	玉	府中小木氏	鈍才			
	玉	府中女	亀女			
	玉	府中山田氏	吉重			
	玉	千福連水氏	延貞			
	玉	岡本三好氏	共方			
	玉	沢妙行寺	円心			
	玉	池上瑞龍寺	玄哲			
	玉	大塩	安立院			
	玉	大塩山本氏	吉正			
	玉	大塩橋本氏	貞次			
	玉	大塩橋本氏	重次			
	玉	大塩橋本氏	茂英			
	玉	大塩田中氏	正利			
	連玉	大塩八幡别当自教院	連海			
	玉	府中松永氏	陳共			
	玉	府中横山氏	長次			
	玉	府中小出氏	長時			
	玉	府中白天氏	昼月			
	玉	府中齋藤氏	存長			
	玉	府中齋藤氏	存延			
	玉	府中僧	善巴			
	玉	府中	井蛙			
	玉	府中丸岡氏	尋庸			
	玉	府中田辺氏	辰政			
	玉	府中万日堂	真夢			
	玉	府中菅山氏	信善			
	玉	府中全田氏	勝永			
	玉	府中宇野氏	正次			

地域	句集	作者・注記	作者	秋	夏	春
府中3	玉	府中宇野氏	重定			
	玉	府中宇野氏	重芝			
	玉	府中大畠氏	秀盛	1		
	玉	府中吉村氏	義次			
	玉	府中萩原氏	季広			
	玉	府中高橋氏	貞好母			
	玉	府中紙屋氏	豊次			
	玉	府中五十嵐氏	豊友			
	玉	府中松本氏	連朋			
	玉	府中町村氏	茂昆			
	玉	府中内海氏	任意			
	玉	府中石川氏	簡口			
	玉	府中高橋氏	貞好			
	玉	府中大嶋氏	秋哲			
	玉	府中僧	四楽			
	玉	府中浅井氏	広任			
	玉	府中杉本氏	交友			
玉	府中小泉氏	幸次				
玉	府中小部氏	幸琴				
玉	府中西川氏	玄清				
玉	府中五十嵐氏	元真				
玉	府中箕輪氏	久定				
玉	府中宇佐見氏	吉殊				
				90	59	74
東郷		東郷住照恩寺十四才	不明	1	1	1
		越前東郷照恩寺	不明母			1
		越前東郷住佐藤	布草尊	1	1	1
		越前東郷住義沃氏	慶智	1		
	越前東郷住青山	宗智		1		
松岡	玉	松岡住小林氏・晋知	調莞子		1	
	森田	森田住浄因寺	素隠			1
	連	森田浄因寺	了祐			
	玉	森田僧	知電			
	連玉	御油田演仙寺	義天			
金津		金津金谷住沙門	是等	1		
	玉	金津願泉寺	理海			
	連玉	金津	貞林			
	連	金津山口氏	口荆			
	連	金津	雅友			
		丸岡住朝陽軒	鶴一	1		
		丸岡住忠見氏	未達	1		
		越前丸岡住岡田氏	浮沈			1
		越前丸岡住忠見氏	京達		1	
	玉	丸岡九里氏	風柳子			
玉	丸岡楠氏門弥	冬鸞				
加戸	玉	越前加戸村住沙門	井蛙		1	1
	田ノ谷	大安寺大愚二世	隠嶺			
三尾野	玉	越前三尾野村住	加藤氏	1		1
	吉江	越前吉江住	陶山氏	1		
	玉	吉江上田氏	安室			
	玉	吉江	直正			
栃川	玉	栃川住	豊祐	2		1
	追	栃川木下氏	元征			
	追	栃川	延智			
	○	栃川木下氏	吉重			
	○	栃川木下氏	忠綱繼			
	○	栃川円福寺	照周			
	山○	栃川西野氏	吉歌			
	追○	栃川西野氏	吉仲			
	追○	栃川	吉秀			
	追○	栃川木下氏	知宣			
金屋(朝日)		越前金屋住上坂氏	吉長		1	
	越知山	越智山	独翁			
八田	越前八田斎藤氏	重正			1	
漆原	越前漆原住日丸氏	淨悦	4	1		
野田	越前野田之住中村氏	久次	1			
氏江	夢朋・越前氏江村住	清岸	2	2	2	
				17	10	11

地域	句集	作者・注記	作者	秋	夏	春
三国		三国森田氏	巳百	4	3	2
	玉	三国五十嵐氏	是一	4	3	3
		三国腹辺氏	一計	1	2	
玉		三国僧显堂軒	一相	5	4	2
		三国本城氏	少計	1		
		三国西ノ寺	法水	1		1
		滝谷住斎藤	冬葉	1	5	
		滝谷住高橋氏	是三		1	
山		三国境屋	久可	2	3	2
		三国昼曇庵	一桐	1		
		三国住沙門	松葉	2		
		三国住沙門	古堂	1		
		三国酒井氏	次親	3	3	
		三国住室屋	暮三	1	1	
		同住	烏白	2	2	
		三国専立寺	心海	1		
		三国・吉原氏	一是	1		1
		三国竹内氏	末葉	1	7	3
	三国朝日田氏	是二			1	
	三国江波氏	柳葉			1	
	三国	しゅん女			1	
	三国江波	光林	1		2	
	三国松ヶ・まつか	是計	2	1	1	
玉		三国	古豊			
		新保住上野氏	知定	8	7	2
		新保	卜世	1		
		新保	なつ	1		
		新保住	一海			1
		新保住	一應	1		
	玉	新保住久米氏	古隆	5	5	5
	新保住久米氏	不出	2	3	2	
	新保久米氏	道追			1	
	新保久米氏	つる	1			
	新保久米氏	久春	1			
	新保竹内氏	正信	2	1	1	
	新保武田氏	治之	2	3	2	
	新保	如白	1			
	新保住竹内氏	重矩	1	3	3	
	新保住竹内氏	久嘉	1	1		
連		新保住竹内氏	正治	1		
		新保竹内氏	竹野	1		
	新保住上林氏	正継	1	4	2	
	(新保住)久米氏	久陳	4	3	4	
	新保住久米氏	秀白	1	2		
	新保住	寛利	1			
	新保住森氏	辰女			1	
	新保	元政			1	
	新保上野氏	五一	1	1	1	
	新保竹内氏	重矩	1		3	
連		新保	幸直			
	連	新保竹内氏	保少			
追	新保道実氏	葛榮				
山		三国	幸雜			
	山	新保	久末			
山	新保	行空				
○	越前新保道実氏	末重				
				69	73	48
横根		越前横根寺	実秀	1		1
片屋		片屋住光照寺	廻入	1		1
清水頭	玉	清水頭毫撰寺僧都	光幽		1	2
大滝	玉	大滝和泉守藤原氏	吉家			
新在家	玉	新在家堀部氏	平次			
東谷		越前東谷住本高寺	貞順	1		1
大道		越前大道加藤氏	信之			1
		越前大道住川崎氏	重尚		2	1
脇本		越前脇本川崎氏	是重	1		
玉		脇本	川崎氏			
				21	13	18